

教育目標具現化の全体構想

学校の教育目標

豊かな心を持ち、かしこく、たくましく生きる子供の育成

目指す子供像

自ら考え表現できる子供

- 粘り強く学習に取り組む子
- 相手の考えをよく聞き、自分の考えを
進んで表現する子
- 学習規律を守り、互いに
認め合いながら
学んでいく子



互いに助け合う子供

- 相手を思いやり、進んで協力する子
- 互いのよさを認め、励まし合う子
- 周囲に感謝し、ふるさとを大切に思う子
- 約束を守る子



健康に努める子供

- 目当てをもって楽しく運動する子
- 心や体の健康について自ら考え、
規則正しい生活ができる子
- いのちの大切さを考え
行動できる子



本年度の重点目標

自ら考え、いろいろなことに挑戦し、自分を表現できる子供の育成
合い言葉「本チャレ(本気でチャレンジ)」

学校運営の方針

1 新たな学びに向かう学校づくり

- ・ 先が予測できず変化の激しい VUCA(ブーカ)の時代には、未知の問題に取り組み、解決していく力が重要である。そのような力を身に付けるためには、習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用する力や思考力・判断力・表現力等を育成しなければならない。そこで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を通して、子供たちが自分の考えを生き生きと表現し合い、「分かった」「できた」を実感できるように授業改善を推進していく。
- ・ 富山県小学校教育研究会社会科研究推進校の2年間の成果を生かし、多様な方法で追究していける問題発見・解決型学習を取り入れ、子供たちが問題意識を高め、自己調整しながら学習を進めることができるよう、効果的な学習環境や学習過程の工夫に努める。
- ・ ICTを効果的に活用し、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を関わらせることによって、「協働的な学び」の一体的な充実を図るように努める。

2 豊かな心を育む学校づくり

- ・ 日々の教育活動の中で、人や自然、社会と関わる体験を通して、自他のいのちがかけがえない存在であることを実感する「いのちの教育」を推進する。
- ・ 「いじめは絶対に許されない」という認識をもち、子供たちが安心して「居場所づくり」や自己存在感や自己肯定感を育む「絆づくり」により未然防止や早期発見に努め、いじめには、組織的に毅然とした態度で対応に当たる。
- ・ 特別な配慮や支援を必要とする子供の指導にあたっては、子供の特性を見極め、専門性を高める研修を行い、関係機関等と連携し、課題の解決・改善にあたる体制を整備する。

3 たくましく生きる体力の向上を目指す学校づくり

- ・ 目標をもって運動に取り組む場を設けるとともに記録を蓄積することで、運動の習慣化を図る。
- ・ 運動する楽しさや喜びを味わえるように様々な体育的活動を企画・実践し、体力の向上を図る。
- ・ 自らの健康に関心をもち、食事、睡眠等のよりよい生活習慣の確立と、病気やケガから身を守るための実践力を養う。

4 地域とともにある学校づくり

- ・ 学校・地域にある自然や文化財を生かした「ふるさと学習」を推進し、郷土への誇りと愛情を育む。
- ・ 教育活動に自然や地域社会の人々と触れ合う直接体験を積極的に取り入れる。
- ・ 教育活動を通して、組織の一員、地域の一員として貢献しようとする気持ちを育てる。

5 家庭・地域との連携を推進し、信頼される学校づくり

- ・ 各種たより、ホームページなどによる積極的な情報提供や情報共有により、保護者や地域の方々との連携して教育活動を進め、信頼される開かれた学校づくりに努める。
- ・ 地域の認定こども園、幼稚園や保育園、中学校との交流・連携を図り、連続性・一貫性のある教育に努める。

アクションプラン

知

思いや考えを相手に伝わるように話したり、分かってほしいと聞きながら聞いたりする

(85%)

- 学習規律10か条の定着に向けて、全校で重点的に取り組む。
- SST・表現タイム等を取り入れ、思いを言葉で伝えたり、聞いたりするスキルを高める。
- 考える時間を十分に確保し、話す内容や目的を明確にした上で、ペアやグループ学習を取り入れる。

徳

あいさつのキャッチボールをしている

(85%)

- 日頃の授業や生活の中で、児童が進んであいさつのキャッチボールができるよう指導する。
- 委員会活動や挨拶運動等、児童主体の取り組みを充実する。
- 自己評価や他者評価を取り入れる場を設け、挨拶の意欲が高まるようにする。

体

進んで運動や体を動かす遊びに取り組んでいる

(85%)

- 体育科の学習や行事等を通して、十分に運動の楽しさを味わわせる。
- 運動や運動遊びへの意欲を高める魅力ある環境を整える。
- 学習カードや「とやま元気っ子チャレンジ」を活用して運動の記録を蓄積させていくことで、自己の成長を感じられるようにする。

学期ごとに、自己評価や他者評価によって、自分の実態を振り返り、改善を図る